

かざわみどりのかい
加沢みどりの会 (東御市)

・組織の活動面積	A=	35.4	ha
・組織の構成員数	約	120	人

組織形態	農地維持 ■	資源向上(共同) ■	資源向上(長寿命化) ■
取組開始年度	平成26年～	平成26年～	平成26年～

構成員	農家、加沢区、水利組合、おらほの福祉会、老人会、婦人会、青少年育成会、公民館、小・中学校PTA
-----	---

★組織の概要★

加沢区内の農地(水田23.91ha、畑11.49ha)と農業用施設(水路17.6km)を保全・管理している活動組織です。

農業用施設の維持管理はもとより、遊休農地を活用した「ビオトープ」や「ホタル水路」の維持管理を行っている。また、遊休農地を借り受け、「おらほの田んぼ」として昔ながらの米作りを体験する中で農業文化の伝承にも努めています。秋には収穫祭が実施され、収穫されたお米は加沢区の各種行事に活用されるなど、積極的に世代間交流が図られています。

農村の景観保全と農業文化の伝承

ビオトープの「アヤメ」が満開

遊休農地(水田)を「ビオトープ」にし、3つの島を飛び石でつなぎ、渡ることができます。

毎年5月の末には「アヤメ」が満開になり、道行く人に安らぎを与えてくれます。

(右の写真は「アヤメ」が満開のビオトープ)



(小学生を交えた田植え)



(ふれあい昼食会)



(小学生が参加してお餅つき)



(中学2年生を対象にした立志式)

世代間の交流と収穫祭

「おらほの田んぼ」で取れたお米は、加沢区の各種行事(しめ縄づくり、立志式、市民祭り、作業時のおやつ、ふれあい昼食会、収穫祭などで、子ども達やお年寄りに振る舞われます。(左の写真は、田植え・収穫祭「おもちつき」・ふれあい昼食会・立志式の様子です。)

隧道の管理

素掘りの隧道があり、毎年ザルリレーで土砂出しが行われている。大変な重労働だ。



(隧道内の土砂出資作業)

(ボックス内の目地詰め)



◎新聞報道での紹介

(平成19年9月27日付)

- ・信濃毎日新聞「加沢のビオトープ完成」
- ・東信ジャーナル「荒廃地がビオトープに」